

平成22年度 第6回 鳥取大学経営協議会 議事要旨

日 時 平成23年3月25日(金) 15:00～17:00

場 所 ホテルニューオータニ鳥取 はまなすの間

出席者 安藤委員、岡本委員、長谷川委員、古澤委員、能勢委員、林委員、岩崎委員、本名委員、
小林委員、井藤委員、豊島委員

欠席者 柴田委員、平井委員、吉岡委員

[陪席者] 山根監事、萩原副学長、岸田副学長、清水副学長、若副学長、田中工学研究科長、
中島農学部長

議事に先立ち、学長から、3月11日に発生した「東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)」により、多くの犠牲者が出る大惨事となったことを受け、本学においても、医師・看護師等の現地への派遣、災害救援物資の提供など、対応を行っている旨説明があった。

また、今回の会議では、平成23年度の事業計画及び予算配分案等について、委員の皆様方から様々なご意見を賜りたい旨挨拶があった。

議 題

1. 平成23年度年度計画(案)

小林副学長から、資料1に基づき、第二期中期計画期間の2年目となる平成23年度の年度計画(案)について、教育、研究、社会連携、業務運営等に関する本学の特徴的な計画について説明があり、審議の結果、承認された。

また、引き続き小林副学長から、資料6に基づき、平成22年度における本学が取り組んだ業務の実績に関する概要について、特に顕著な成果として、以下のとおり報告があった。

- ・授業改善が迅速に図れるよう、「中間期アンケート」を導入。
- ・本学、鳥取県教育委員会、鳥取県東部地区の公立高校5校による「地域中等教育協議会」を開催。
- ・医学系研究科機能再生医科学専攻において、ES細胞を使用した心臓ペースメーカー細胞の作成に成功。
- ・倉吉市に中部ものづくり道場を創設し、「中部ものづくり道場・創設フォーラム」を開催。
- ・医学部附属病院において、就業環境の向上に資することを目的として、「ワークライフバランス支援センター」を設置。
- ・同じく医学部附属病院において、地域の医療へ貢献を行うことを目的として、「脳とこころの医療センター」の運用を開始。

— 委員の主な発言 —

◇ 岡本委員から、附属学校に関する計画「平成23年度より、附属学校の教員を本学大学院において研修させる」の内容について質問があり、本名理事から、附属学校から教員2名を受け入れ、授業料等を徴収することなく本学大学院で研修を行うなど、教員にとってメリットが多い制度である旨説明があった。また、岡本委員から、重要な事業であるため、積極的に進めて欲しい旨意見があった。

2. 新しい運営組織

萩原副学長から、資料2に基づき、平成23年4月から運営組織を変更することについて、人事評価を主担当とする「学長顧問」を新設すること、理事を新たに1名任命し、併せて所管の見直しを行ったこと、副学長の所管の見直しを行ったことなど説明があり、審議の結果、承認された。

また、前回の経営協議会（1月25日開催）において承認を得た事務組織の改編についても説明があり、前回からの変更点として、財務部財務課及び医学部事務部経営企画課に副課長を配置すること、工学部及び農学部事務長補佐を配置することなど説明があった。

3. 平成23年度学内当初予算配分（案）

林理事から、資料3に基づき、第4回経営協議会（12月10日開催）において承認を得た平成23年度学内予算編成方針に基づき作成した平成23年度学内当初予算配分（案）の概要について以下のとおり説明があり、審議の結果、承認された。

- ・運営費交付金について、大学改革促進係数（ $\Delta 1.3\%$ 、対前年度比 $\Delta 108$ 百万円減）が課せられたものの、教育研究プロジェクトの新規採択等により特別経費が対前年度比251百万円増となり、総額で154百万円の増。
- ・授業料収入について、従前は減免分を控除して収入予算を計上していたが、平成23年度から収入予算及び支出予算に減免分を計上。
- ・学生数及び教員数に基づき配分する基盤的経費について、教育・研究活動の水準を維持するため、配分単価を前年度と同額として積算。
- ・人件費について、昇給幅抑制解除に伴う俸給月額増、高年齢継続雇用の増員等により増額。
- ・機動的な大学運営を実施するため、年間を通じて実施が必要な新規事業、就職支援等の経常的と認められる事業について、当初予算に計上。
- ・率先して経費削減を推進する趣旨から、事務局管理経費を対前年度 $\Delta 5\%$ （部局は $\Delta 2\%$ ）に設定して積算。

4. 平成22年度第2次学内補正予算（案）

林理事から、資料4に基づき、授業料収入、補助金収入等の増減に伴う収入予算及び支出予算の補正、予備費の取崩に伴う物件費予算の補正など、第2次学内補正予算について説明があり、審議の結果、承認された。

なお、今回の震災の対応に伴う経費が必要であれば、予備費の残額で対応可能である旨補足説明があった。

5. 医員及び医員（研修医）に係る処遇改善

萩原副学長から、資料5に基づき、医学部附属病院における医師の人材確保及び定着を一層推進するため、医員の給与水準を引き上げること、フルタイム勤務の医員及び医員（研修医）に年俸制を導入すること、常勤職員と同様の休暇制度を導入することで、処遇改善を図りたい旨説明があり、審議の結果、関連規則と併せて承認された。

— 委員の主な発言 —

◇ 長谷川委員から、医員及び医員（研修医）の現状について質問があり、萩原副学長から、医員のフルタイム勤務は58名、パート勤務は65名、研修医は19名であり、その他研修協力病院で15名の研修医が研修を行っている旨説明があった。

報 告

1. 平成22事業年度に係る業務の実績に関する概要

議題1で報告済み。

2. 救命救急センターの一部完成及び全体計画の変更

豊島病院長から、資料7に基づき、救命救急センターについては、第3回経営協議会（10月26日開催）で計画の変更について承認を得ていたが、その後、以下のとおり再度全体計画の見直しを行った旨報告があった。

- ・ 2階部分は10床から20床にする予定であった病床数を10床から15床に変更。
- ・ 3階部分はスタッフの環境スペースにする予定であったが、総合周産期母子医療センターの患者数が増加傾向にあることから、移転・増床整備を行うことに変更。

また、本センターの一部完成に伴い、3月7日（月）に竣工記念式典を行った旨併せて報告があった。

3. 脳とこころの医療センターのオープン

豊島病院長から、資料8に基づき、これまで個別に診療を行ってきた神経系と精神系の診療科4科を連携させ、より質の高い医療を提供することを目的として「脳とこころの医療センター」を設置した旨報告があった。

4. とっとりバイオフィロンティアの進捗状況

林理事から、資料9に基づき、本学が保有する染色体工学技術を活用し、県内にバイオ産業創出を目指すこととしていた「とっとりバイオフィロンティア」について、4月に拠点施設が完成することから、4月26日（火）に開所記念式典を行う旨報告があった。

5. 鳥取大学における東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の対応状況

萩原副学長から、資料10に基づき、3月11日（金）に発生した東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）に対する本学の対応について、本学の学生及び教職員の安否確認、入学試験への対応、災害救援物資の送付及び義援金の募集等の取り組み状況について、報告があった。

また、引き続き豊島病院長から説明があり、医学部附属病院ではDMAT及び医療救護班の派遣を実施しており、今後は放射線測定者の派遣等を予定している旨報告があった。

6. その他

学長から、資料11に基づき、次期経営協議会委員について、柴田委員に代わり株式会社今井書店グループの永井会長を委員とする旨報告があった。

また、資料12及び資料13に基づき、大学の動き及び最近の地域貢献の取り組みについて報告があった。

最後に学長から、委員のみなさまには、大学経営に係る貴重なご意見を種々いただいたことと併せて、来年度も引き続きご指導、ご協力を賜りたい旨挨拶があった。

以上